

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和4(2022)年9月(週報第 36 週～第 39 週(9/5～10/2))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 {9月は4週間、8月は5週間、前年同期は5週間での比較となります。}

## (1)概況

ア. 9月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類)把握疾病は、**23,843 件**(8月 **72,371 件**)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **1,428 件**(定点あたり 7.56 件/週)であり、8月の **1,625 件**(定点あたり 7.05 件/週)と比較し、週あたり **1.07 倍**とほぼ同様水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較 (週あたり比)	前年同期との比較 (週あたり比)
手足口病	<b>601 件</b> (週あたり平均 150.25 件)	⇒ <b>(0.90 倍)</b> 前月は 833 件 (週あたり平均 166.60 件)	↑ <b>(62.60 倍)</b> * 前年同月 12 件 (週あたり平均 2.40 件)
RSウイルス感染症	<b>548 件</b> (週あたり平均 137.00 件)	↑ <b>(1.87 倍)</b> 前月は 366 件 (週あたり平均 73.20 件)	↑ <b>(4.34 倍)</b> * 前年同月 158 件 (週あたり平均 31.60 件)
感染性胃腸炎	<b>96 件</b> (週あたり平均 24.00 件)	↓ <b>(0.63 倍)</b> 前月は 191 件 (週あたり平均 38.20 件)	↓ <b>(0.63 倍)</b> * 前年同月 191 件 (週あたり平均 38.20 件)

- ① **手足口病**は、前月に比べ報告数が 0.90 倍とほぼ同様の水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 62.60 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、やや高い水準で推移しています。
- ② **RSウイルス感染症**は、前月に比べ報告数が 1.87 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 4.34 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ③ **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 0.63 倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.63 倍とかなり低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、やや低い水準で推移しています。

## (2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

ア. 1類、2類、3類疾病及び指定感染症

結核 916 件(8月 1,300 件)、腸管出血性大腸菌感染症 429 件(8月 693 件)、新型コロナウイルス感染症 1,878,397 件(8月 6,682,477 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4類・5類(上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	954	1,405
2	レジオネラ症	235	270
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	167	207
4	日本紅斑熱	77	58
5	後天性免疫不全症候群	55	69
5	侵襲性肺炎球菌感染症	55	108

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 **23,843 件**)

結核 9 件、腸管出血性大腸菌感染症 10 件、レジオネラ症 9 件、アメーバ赤痢 1 件、後天性免疫不全症候群 1 件、水痘(入院例) 1 件、梅毒 8 件、新型コロナウイルス感染症\*23,804 件

\*全国一律での「発生届の限定化」に伴い 9/26 から集計方法が変わりました。

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

## 2 疾病の予防解説

RS ウイルス感染症について解説します。

RS ウイルス感染症は、RS ウイルスに感染することによって引き起こされる呼吸器疾患です。2歳までにほぼ100%の子どもが感染するとされており、一度かかっても終生免疫は得られないので何度もかかる可能性があります。小さい子どもに多い感染症ですが、高齢者においても重い症状が出る場合があります。

以前は冬季に報告数のピークが見られ、夏季の報告数が少ない状態が続いていましたが、平成23(2011)年以降、夏季から秋季にかけて増加する傾向が見られています。令和3(2021)年は春季から夏季にかけ増加し、例年と異なる時季に流行が認められました。令和4(2022)年は夏季から増加し、警戒が必要な状態となっております。

今後も発生動向に注意するとともに、引き続き予防対策を心がけましょう。

疾病名	RS ウイルス感染症
原因と感染経路	病原体はRS ウイルス (respiratory syncytial virus) です。 RS ウイルスに感染している人が咳やくしゃみ、又は会話をした際に飛び散るしぶきを吸い込むことによる「飛まつ感染」や、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等）を触ったり又はなめたりすることによる間接的な「接触感染」で感染します。
症状	潜伏期間は2日～8日間（通常4～6日）です。 「発熱」「鼻汁」「咳」など軽い風邪のような症状で、通常は数日から1週間くらいかけて徐々によくなります。しかし、重症化すると気管支炎や肺炎の兆候が見られ、中には呼吸困難を起こして入院することもあります。特に基礎疾患を有する小児や生後3ヶ月以内の乳児の感染には注意が必要です。
予防対策	○手洗い 流水・石鹼による手洗いやアルコール製剤による手指消毒が有効です。 ○咳エチケット 咳やくしゃみをする時はティッシュや布を口と鼻にあてる、または、マスクを着用するなど他の人に直接飛沫がかからないようにしましょう。 ○消毒 子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒しましょう。
治療	特効薬などはなく、治療は基本的に対症療法（症状をやわらげる治療）を行います。 ※呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができないときには、早めに医療機関を受診しましょう。

(疾病の予防解説 参考) 国立感染症研究所 ホームページ <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases.html>  
厚生労働省 ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、9月に県全域及び各保健所管内で発生した警報および注意報は、次のとおりです。

	第36週 (9/5～9/11)	第37週 (9/12～9/18)	第38週 (9/19～9/25)	第39週 (9/26～10/2)
手足口病	【警報】 宇都宮、県北、 安足	【警報】 宇都宮、県北、 安足	【警報】 宇都宮、県北、 安足	【警報】 県北、安足

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位1%以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。